

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 さくら		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成25年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyvosvoCd=2276600422-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyvosvoCd=2276600422-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人であり、週1回の医師の往診と1日1~2回の看護師の往診がある。また24時間態勢なため、重度化しても対応できる体制が整っており、最期まで今日香で過ごされる入居者さんも多い。平屋建てであり、いつでも入居者さんが外に出て過ごすことができるため、施設前にはイングリッシュガーデンを造り、安全に散歩できるよう工夫している。住み慣れた地域で、方言を使いながら1人1人が思い思いの生活を送っていけるよう、あえて施設での決まりを作らず、のんびりと過ごせる空間作りを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は入居者を本当の祖父、祖母のように思っていて、早く馴染みの関係になりたいと「じいじ」など呼ばれ慣れている呼び名で呼んでいる。部屋にこもるのではなくフロアに出てきてもらって会話をする機会を作りながら、自宅にいるような支援に心がけている。医療法人であるので、医療連携がとれることで職員は家族と協力して安心して最後まで暮らしていける。多数の看取りの経験からその人らしい生活をして欲しいと願い、その思いを毎日のケアに活かしている。事業所の前のイングリッシュガーデンの花の時期には外部の人たちも多く訪れ、地域の人たちの交流の場になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は両フロアの玄関に飾ってあり、管理者や職員だけでなく、どなたでも確認できるようにしてある。 また、入社時や職員会議などでも理念については説明している。	9年前開所当時の施設長の作った「お互い様の心」の理念は、人生の先輩である入居者から知識をもらい、本人のできないことを介護でお手伝いをすることで実践に繋がっていて、職員同士の関係にも浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、清掃活動や地区のお祭りなどにも参加させていただいている。 また、施設の敬老会などには地区の老人会の方にも参加して頂いている。	事業所の前のイングリッシュガーデンに近くの保育園児が来る時交流があり、地区の祭りの前日にジャストライブを開催している。中学生等の体験学習の受け入れを行っていたり、祭り等の地域の行事に参加しているが日常の交流には至っていない。	入居者や職員が、事業所の中だけでなく、日常的に地域と付き合い交流できるようになることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催ができています。 参加して頂いている方からいろんな助言をいただいたり、認知症について、今日香が知っている知識を伝えたりと、お互いに話し合いができています。	行政職員、地域包括職員、自治会長、民生委員に声掛けて順番に家族の参加があり、報告のみではなく、質疑、要望、助言等で双方向の話し合いがなされている。会議でピック病の説明をし参加者の理解を得られた。議事録は家族に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡会議に参加したり、分からない事があった場合には運営推進会議や直接電話をして確認させていただいたりしている。また、月1回介護相談員の訪問がある。	行政職員と地域包括職員は毎回運営推進会議に出席しているので、話し易い関係が出来ていて、電話等で相談をしている。地域包括職員とは退去した方のその後の生活の話をしてくれるなどの交流がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行っており、職員全員がしっかりと把握できるように努めている。また、新しい入居者様が入居される際、ご家族様からこうして下さいと要望があった場合にもしっかりと説明し、安全に過ごせる環境を整えている。	転倒の危険のある入居者の家族が抑制帯使用、4点柵のベッドを希望していたが入居時に拘束の説明をして、ベッドの下に布団を敷き、見守りで転倒をすることのないケアの実施をしている。毎月の勉強会で拘束の理解を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っており、職員全員がしっかりと把握できるように努めている。日々の生活の中で、言葉遣いや対応の仕方については職員同士で注意し合える環境を整えている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、成年後見制度を検討しているご家族様がいたため、制度について職員全員に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 年に1回家族会を行っており、そこで出た意見等は職員会議などで話し合い改善に努めている。 面会が少ないご家族に関しては、連絡して話をさせていただいている。	家族の面会時に玄関で状態を伝え部屋で本人と交えて話をしている。運営に関する意見、要望はないが重度の方でも「フロアに出してほしい」「洋服をほどいてしまう」等の要望や困ったことの相談に即対応し、1日に1回はフロアに出るようにしたり、洋服の材質を変えることで応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議で施設長が話すのではなく、先に担当の係から話をしていく事で、職員が話しやすい環境作りに努めている。必要なものが出た場合にはみんなで検討し、購入したりする。	物品係から食器の洗剤やボディソープが使いにくいので変更したい。食事係から入居者の残すものから給食センターへ要望を伝える。リクレーション係から季節ごとの飾り付けのこと等各担当者からの意見を即反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数によって支給額が上がる。 資格取得に応じて資格手当が支給される。 また、スキルに応じて支給額が上がる介護職手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修や勉強会も法人で行っている。法人以外での研修にも出来る限り参加してもらうよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	資格取得のための勉強会は、法人内の他施設と合同で行っている。 来年より、地域の施設が集まっている事業所連絡協議会に参加させて頂く予定になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず1度は本人と面会し、話を伺っている。場所も、今日香ではなく、その時点で本人が生活をしている所へ訪問し、状態の観察をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活の場へ行って話をする事で、少しでも安心感を持ってもらい、話しやすい環境づくりを心がけている。また、入居前に何度か会って話をする事で、しっかりとアセスメントをとり、不安の軽減に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム対象者の相談ばかりであるため、入居希望の相談しかない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はあまり声かけせず、出来る限り自然に何かをしたくなるような環境作り、ケアを心がけている。自分の存在価値を見出してもらえよう、食器洗いや掃除などを職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には出来るだけ多く関わりを持つようにし、現在の状況を報告している。また、変化が見られた時には、その都度連絡し、ご家族様と相談しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、親戚や地域の友人なども面会に来て頂いている。ご家族と外出するだけでなく、手紙の交換もして頂いている。また、今まで通っていた美容院や歯科、眼科などにもいけるよう、職員が対応している。	近隣の入居者が多く家族は本人だけでなく、周りの人にも声をかけてくれたり、まず知人のところへ行ってから家族の部屋に行く方がいて、職員は入居者が話しやすいように工夫をした支援をしている。ハガキと一緒に買いに行き、宛名書きの手伝いをして一緒に投函しに行く支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者さん同士を同じテーブルにし、関わりを多く持てるよう工夫している。また、長くフロアにいる事ができない入居者さんに対しては、和室で休んで頂き、他者の気配を少しでも感じてもらえるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最期までお世話をさせて頂くことがほとんどなため、あまり関わり合う機会がないが、近所に住んでいるご家族様が施設の庭を覗に来てくれたり、連絡をいただいたりすることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何かしらの訴えがある場合には、職員で相談し、出来る限り対応させていただいている。困難な場合でも、本人の表情やしぐさ等、少しの変化が見られる場合には、その反応を見ながら対応している。	入浴中、居室等で1対1の時「〇〇が食べたい」「〇〇に行ってみたい」等の希望を聞くことがあり、職員に伝達し即実践している。「〇〇に会いたい」等家族に確認をとってから叶えるようにしている。重度で発意の困難な方の顔の表情から汲み取りクッションの工夫等でフロアで過ごせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況や今後の希望、現在の本人の状況を職員全員が把握できるよう、「入居前情報」という書類を作成し、確認してもらっている。また、入居後は毎月評価を行い、本人にあったプランであるか確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートだけではなく、フロアごとのノートも作っており、変化があった場合には必ず記録するように努め、職員全員が把握できるよう努めている。また、その後カンファレンスで話し合い、確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ずつ順番にケアプランの1ヶ月評価を行っており、変化があった場合にはその専門の方に相談し、プランを作成している。また、ご家族にもプランの評価と新プランの説明を必ず行っている。	夜勤明けと日勤の職員と管理者が話し合って毎日1人ずつ毎月評価をしていて、6か月に1度と状態に変化が見られた時に見直し医師、看護師の意見を聞き、本人、家族と話し合い、意見を取り入れてケアマネジャーと管理者が作成していて家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、1時間以上空けないようケース記録に記入している。それ以外には申し送りやカンファで話し合ったことや気づいたことがあった場合には、連絡ノートやフロアごとのノートなどに記入し、把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人なため24時間体制で1人1人の状態を把握し、対応させていただいている。また、ご家族や本人の希望があれば、外出や外泊、施設に泊まって頂く事にも対応している。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しているため、施設で何かがあった場合には対応して頂けるようになっている。地区の消防団の方にも、施設の中を把握してもらえるよう、担当の方の見学を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であるため、入居時の説明でほとんどの方が変更されている。歯科や眼科、精神科、脳外科など、専門の病院に通っている入居者さんの場合には、今まで通っていた病院に職員が対応して通院している。	法人の医療機関から送迎車が来て職員が同行して受診している。重度の方も車いす対応、リクライニング対応の送迎車にポーターさんの対応で受診している。認知症専門医への受診は家族が迎えにきて受診し、結果を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1～2回/1日法人の往診部より、看護師が来てくれるため、分からない事があった場合には相談すると一緒に対応してくれる。また、状態に応じて、すぐにDrに連絡し、対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療法人なので、ほとんど法人内で対応出来ているので、あまり他院との関わりはないが、入院することになった場合には、ご家族と一緒に説明を聞き、対応している。退院までは出来る限り病院とご家族に連絡し、早期退院に向けて相談し、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に看取りケアについての説明を行っており、変化があった場合にはその都度ご家族や医師、看護師と相談しながら1つ1つ対応を考えている。状態に応じて職員の体制も変え、精神的な面でも配慮している。	入居時に家族から看取りの希望があり、看取りの指針の説明をしている。24時間対応で看護師と医師との医療連携がとれ、看取りの経験も多数ある。急変時に備え、夜勤者の勤務体制をベテランと新人で組ませ、精神面での不安を取り除く配慮をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対策マニュアルを作成し、勉強会も行っている。中途採用の職員には、入社時に説明している。施設や地域の防災訓練でも学ぶ機会があるため、その都度学んだ事を他職員にも報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3回/年 火災、地震、水害を想定した防災訓練を行っている。また、それぞれの居室の戸には状態に応じたカードを飾りに見えるように作っており、消防署と地区の消防団、民生委員に説明してある。	火災訓練には消防署の参加があり、指導の下、時間を測って駐車場までの避難訓練をし、入居者も一緒に消化器を使って消火訓練をした。地震訓練は近隣に呼びかけ起震車に来てもらって行ったが住民の参加はなく、職員だけ起震車に乗って訓練を行った。水害を想定し山まで全員車で非難した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人によって呼び方を変えたり、方言を使ったりして対応している。その人の状態によって、その時間その時間で気分が変わる入居者さんもあるため、その都度声かけの仕方も変えている。話す事が出来ない方には、その都度反応を見ながら対応している。	家族的な事業所であり、呼び名も「じいじ」や「お父さん」などがあったり、「子供のころ呼ばれた名前でも呼んでほしい」等の希望に応じて反応の良い声かけの仕方を変えている。方言を使った暖かな会話の中にその人を尊重した配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人声かけの仕方を変えていく事で、自己決定出来るよう心がけている。重度の方は、話すペースもみんな以上にゆっくりにし、表情や仕草を注意深く観察する事で、本人の思いや気持ちをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さん用の日程表は作っていない。みんなと一緒に何かをする事を嫌う方が多いため、1人1人に合った施設で出来る事をその時の状況に応じて声かけし、やってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院などは、本人の希望によって今まで通っていた美容院に行く方と、施設に来てくれる美容院をお願いする方という。髪形なども、こだわりがある方は、その希望を出来る限り叶えてあげるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜は法人の給食センターが作ってくれるため、みそ汁などの具と一緒に切ってもらったりお皿に分けてもらったりしている。食後は自分で出来る方は洗い物をして頂いている。味付けや固さなどは、給食センターに連絡すると変更してもらっている。	食事担当係が食事でいつも残すものがあると、給食センターに伝えたり、さっぱりした塩焼きの魚を食べさせてあげたい等の要望をし、メニューを変えてもらっている。配膳や片づけなど出来る人がやっていて、給食センターの休日は事業所で作り、手作りおやつなど入居者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食形態は常食・キザミ・ミキサーの3種類に分けており、汁物はとろみをつける事もできる。毎食摂取量をチェックし、状況に応じて対応している。栄養が吸収出来にくい方の場合にはエンシュアなどを摂取し補ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と入床時には歯磨きや口腔ケアなど、本人の状況に合わせて出来る事を行ってもらっている。毎食は行えておらず、お茶を飲んでもらう事で対応している。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、1人1人の状態を把握している。トイレに行ける方、リハビリやオムツの方、夜間だけオムツの方やポーターの方等、様々な状態に合わせて対応している。出来る限りトイレで排泄出来るよう、立位困難な方でも訴えがあればトイレに行く事もある。	入居時におむつ使用から、排泄パターンを把握してリハビリパンツに変わった方がいる。失禁した場合も職員は後ろに回り他の入居者に気付かれないように又、本人にも「お茶がこぼれて椅子が汚れた」ときめ細かな工夫でケアをしている。介助の工夫でトイレで排泄できるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時など、ヨーグルトを食べてもらったり、おいもなどの食物繊維を多く含む物を食べてもらったりして気をつけている。運動できる方は散歩したり椅子に座って足を動かしたりして予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表に記入しており、1日おきには入浴してもらっているが、毎日入浴する方もいる。寝たきりの方は3日に1回程入浴してもらっている。声かけし、拒否がある場合には、時間を空けたり対応する職員を変えたりして様子を見ている。	2人介助の方は午前中に、1人介助の方は午後に入浴するようにしている。肌の弱い人などその人に合わせたシャンプーやソープを使っている。拒否される方には「廊下まで一緒に行ってほしい」「お風呂場に誰もいないね、入ろうか」等工夫した誘導で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間を決めず、それぞれ自由に眠くなったら入床している。眠れないと訴える入居者さんに対しては、添い寝や少し話し相手になるなどして、安心して休んで頂けるよう心がけている。日中運動していくよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の記録の中に処方箋を入れ、職員全員が把握できるよう努めている。状態の変化により薬が変わった場合には、申し送りノートやフロアノートに記入し、職員全員が把握し、間違える事の無いよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物など、なるべく本人の希望に合わせて対応している。また、あまり出かけられない方にも、季節感をあじわってもらえるよう、居室に飾りをつけたり、フロアに出て来てもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく時間を作りみんなで散歩やドライブに出かけるよう心がけている。地区のお祭りにも参加させていただいており、地域の方との関わりを持っていけるよう努めている。車椅子の方も、地区の方に手伝って頂き参加する事が出来た。	天候を見て前庭や近隣の散歩をしている。車椅子の方も一緒にドライブで神社、海、花見、ダムなどに行っているが日常的な外出は少ない。	家族や近隣の住民の方たちの協力を得て日常的に外出できるよう期待したい。

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方がいないため、ご家族から預かっているお小遣いは施設長が管理している。しかし、小銭などは自分の財布に入れて本人が持っている事もあり、時々自分で数えていることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	前もってご家族と確認をしておき、TELの訴えがある時にはその場で連絡し、手紙が届いたら返事を書いてもらう等、その時の状況に合わせて対応している。ご家族の意向や状況にもよるが、出来る限り施設としては対応出来るよう心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設にあるものほとんどが家庭にある物と同じサイズになっているため、不快を感じる事なく過ごしてもらえるよう、工夫している。タペストリーや花、鯉のぼり、雛飾りなど季節を感じてもらえるような共有空間作りを心がけている。TVの音量なども時間によって調整している。	陽が入りすぎないようにカーテンで調整し、空調や加湿器を使用し快適な温度で居心地良く過ごさせている。日本間は座椅子に座り足を伸ばす、横になって休む、洗濯をたたむ場所になっている。食事のテーブルの席割に気遣っていて、食後も車いすの方とソファで座る方が一緒にくつろげるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたい方、みんなと一緒に過ごしたい方など、それぞれの思いを尊重したケアを心がけている。フロアのTVの周りをソファで囲み、出来る限りくつろげる空間となっていけるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族と相談したり、実際に生活の場を訪問させて頂き、本人が今まで使ってきた物となるべく多く持って来て頂くようお願いしている。現在、本人の希望で、入居後にフローリングを畳の部屋にして、今まで生活していた本人の部屋の配置そっくりにして使用している方もいる。	2段の押し入れは広く、物が入るので整然とした居室が多い。今までの生活習慣を継続してベッドではなく布団を敷いて過ごしている方がいる。位牌の前で経文を読む方、ぬいぐるみと一緒に生活している方それぞれその人らしく居心地良く過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体力が低下している入居者さんでも対応していけるよう、様々な所に手すりをつけたり、廊下の洗面台は車椅子の方でも使いやすいよう高さを考えたり、蛇口を使いやすいものに付け替えたりと、その時入居されている方の状態に応じて工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 ほし		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成25年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年 1月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人であり、週1回の医師の往診と1日1~2回の看護師の往診がある。また24時間態勢なため、重度化しても対応できる体制が整っており、最期まで今日香で過ごされる入居者さんも多い。平屋建てであり、いつでも入居者さんが外に出て過ごすことができるため、施設前にはイングリッシュガーデンを造り、安全に散歩できるよう工夫している。住み慣れた地域で、方言を使いながら1人1人が思い思いの生活を送っていけるよう、あえて施設での決まりを作らず、のんびりと過ごせる空間作りを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は両フロアの玄関に飾ってあり、管理者や職員だけでなく、どなたでも確認できるようにしてある。 また、入社時や職員会議などでも理念については説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、清掃活動や地区のお祭りなどにも参加させていただいている。 また、施設の敬老会などには地区の老人会の方にも参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催ができています。 参加して頂いている方からいろんな助言をいただいたり、認知症について、今日香が知っている知識を伝えたりと、お互いに話し合いができています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡会議に参加したり、分からない事があった場合には運営推進会議や直接電話をして確認させていただいたりしている。また、月1回介護相談員の訪問がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行っており、職員全員がしっかりと把握できるように努めている。また、新しい入居者様が入居される際、ご家族様からこうして下さいと要望があった場合にもしっかりと説明し、安全に過ごせる環境を整えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っており、職員全員がしっかりと把握できるように努めている。日々の生活の中で、言葉遣いや対応の仕方について、気になったことは職員同士で注意し合える環境を整えている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、成年後見制度を検討しているご家族様がいたため、制度について職員全員に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 年に1回家族会を行っており、そこで出た意見等は職員会議などで話し合い改善に努めている。 面会が少ないご家族に関しては、連絡して話をさせていたいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議で施設長が話すのではなく、先に担当の係から話をしていく事で、職員が話しやすい環境作りに努めている。必要なものが出た場合にはみんなで検討し、購入したりする。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数によって支給額が上がる。 資格取得に応じて資格手当が支給される。 また、スキルに応じて支給額が上がる介護職手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修や勉強会も法人で行っている。法人以外での研修にも出来る限り参加してもらおう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	資格取得のための勉強会は、法人内の他施設と合同で行っている。 来年より、地域の施設が集まっている事業所連絡協議会に参加させて頂く予定になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず1度は本人と面会し、話を伺っている。場所も、今日香ではなく、その時点で本人が生活をしている所へ訪問し、状態の観察をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活の場へ行って話をする事で、少しでも安心感を持ってもらい、話しやすい環境づくりを心がけている。また、入居前に何度か会って話をする事で、しっかりとアセスメントをとり、不安の軽減に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム対象者の相談ばかりであるため、入居希望の相談しかない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はあまり声かけせず、出来る限り自然に何かをしたくなるような環境作り、ケアを心がけている。自分の存在価値を見出してもらえよう、食器洗いや掃除などを職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には出来るだけ多く関わりを持つようにし、現在の状況を報告している。また、変化が見られた時には、その都度連絡し、ご家族様と相談しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、親戚や地域の友人なども面会に来て頂いている。ご家族と外出するだけでなく、手紙の交換もして頂いている。また、今まで通っていた美容院や歯科、眼科などにもいけるよう、職員が対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者さん同士を同じテーブルにし、関わりを多く持てるよう工夫している。また、長くフロアにいる事ができない入居者さんに対しては、和室で休んで頂き、他者の気配を少しでも感じていただけるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最期までお世話をさせて頂くことがほとんどなため、あまり関わり合う機会がないが、近所に住んでいるご家族様が施設の庭を観に来てくれたり、連絡をいただいたりすることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何かしらの訴えがある場合には、職員で相談し、出来る限り対応させていただいている。困難な場合でも、本人の表情やしぐさ等、少しの変化が見られる場合には、その反応を見ながら対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況や今後の希望、現在の本人の状況を職員全員が把握できるよう、「入居前情報」という書類を作成し、確認してもらっている。また、入居後は毎月評価を行い、本人にあったプランであるか確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートだけではなく、フロアごとのノートも作っており、変化があった場合には必ず記録するように努め、職員全員が把握できるよう努めている。また、その後カンファレンスで話し合い、確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ずつ順番にケアプランの1ヶ月評価を行っており、変化があった場合にはその専門の方に相談し、プランを作成している。また、ご家族にもプランの評価と新プランの説明を必ず行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、1時間以上空けないようケース記録に記入している。それ以外には申し送りやカンファで話し合ったことや気づいたことがあった場合には、連絡ノートやフロアごとのノートなどに記入し、把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人なため24時間体制で1人1人の状態を把握し、対応させていただいている。また、ご家族や本人の希望があれば、外出や外泊、施設に泊まって頂く事にも対応している。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しているため、施設で何かがあった場合には対応して頂けるようになっている。地区の消防団の方にも、施設の中を把握してもらえるよう、担当の方の見学を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であるため、入居時の説明でほとんどの方が変更されている。歯科や眼科、精神科、脳外科など、専門の病院に通っている入居者さんの場合には、今まで通っていた病院に職員が対応して通院している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1～2回/1日法人の往診部より、看護師が来てくれるため、分からない事があった場合には相談すると一緒に対応してくれる。また、状態に応じて、すぐにDrに連絡し、対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療法人なので、ほとんど法人内で対応出来ているので、あまり他院との関わりはないが、入院することになった場合には、ご家族と一緒に説明を聞き、対応している。退院までは出来る限り病院とご家族に連絡し、早期退院に向けて相談し、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に看取りケアについての説明を行っており、変化があった場合にはその都度ご家族や医師、看護師と相談しながら1つ1つ対応を考えている。状態に応じて職員の体制も変え、精神的な面でも配慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対策マニュアルを作成し、勉強会も行っている。中途採用の職員には、入社時に説明している。施設や地域の防災訓練でも学ぶ機会があるため、その都度学んだ事を他職員にも報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3回/年 火災、地震、水害を想定した防災訓練を行っている。また、それぞれの居室の戸には状態に応じたカードを飾りに見えるように作っており、消防署と地区の消防団、民生委員に説明してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人によって呼び方を変えたり、方言を使ったりして対応している。その人の状態によって、その時間その時間で気分が変わる入居者さんもあるため、その都度声かけの仕方も変えている。話す事が出来ない方には、その都度反応を見ながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人声かけの仕方を変えていく事で、自己決定出来るよう心がけている。重度の方は、話すペースもみんな以上にゆっくりにし、表情や仕草を注意深く観察する事で、本人の思いや気持ちをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さん用の日程表は作っていない。みんなと一緒に何かをする事を嫌う方が多いため、1人1人に合った施設で出来る事をその時の状況に応じて声かけし、やってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院などは、本人の希望によって今まで通っていた美容院に行く方と、施設に来てくれる美容院をお願いする方という。髪形なども、こだわりがある方は、その希望を出来る限り叶えてあげるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜は法人の給食センターが作ってくれるため、みそ汁などの具と一緒に切ってもらったりお皿に分けてもらったりしている。食後は自分で出来る方は洗い物をして頂いている。味付けや固さなどは、給食センターに連絡すると変更してもらえている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食形態は常食・キザミ・ミキサーの3種類に分けており、汁物はとろみをつける事もできる。毎食摂取量をチェックし、状況に応じて対応している。栄養が吸収出来にくい方の場合にはエンシュアなどを摂取し補ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と入床時には歯磨きや口腔ケアなど、本人の状況に合わせて出来る事を行ってもらっている。毎食は行えておらず、お茶を飲んでもらう事で対応している。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、1人1人の状態を把握している。トイレに行ける方、リハパンやオムツの方、夜間だけオムツの方やポーターの方等、様々な状態に合わせて対応している。出来る限りトイレで排泄出来るよう、立位困難な方でも訴えがあればトイレに行く事もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時など、ヨーグルトを食べてもらったり、おいもなどの食物繊維を多く含む物を食べてもらったりして気をつけている。運動できる方は散歩したり椅子に座って足を動かしたりして予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表に記入しており、1日おきには入浴してもらっているが、毎日入浴する方もいる。寝たきりの方は3日に1回程入浴してもらっている。声かけし、拒否がある場合には、時間を空けたり対応する職員を変えたりして様子を見ている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間を決めず、それぞれ自由に眠くなったら入床している。眠れないと訴える入居者さんに対しては、添い寝や少し話し相手になるなどして、安心して休んで頂けるよう心がけている。日中運動していくよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の記録の中に処方箋を入れ、職員全員が把握できるよう努めている。状態の変化により薬が変わった場合には、申し送りノートやフロアノートに記入し、職員全員が把握し、間違える事の無いよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物など、なるべく本人の希望に合わせて対応している。また、あまり出かけられない方にも、季節感をあじわってもらえるよう、居室に飾りをつけたり、フロアに出て来てもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく時間を作りみんなで散歩やドライブに出かけるよう心がけている。地区のお祭りにも参加させていただいており、地域の方との関わりを持っていけるよう努めている。車椅子の方も、地区の方に手伝って頂き参加する事が出来た。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方がいないため、ご家族から預かっているお小遣いは施設長が管理している。しかし、小銭などは自分の財布に入れて本人が持っている事もあり、時々自分で数えていることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	前もってご家族と確認をしておき、TELの訴えがある時にはその場で連絡し、手紙が届いたら返事を書いてもらう等、その時の状況に合わせて対応している。ご家族の意向や状況にもよるが、出来る限り施設としては対応出来るよう心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設にあるものほとんどが家庭にある物と同じサイズになっているため、不快を感じる事なく過ごしてもらえるよう、工夫している。タペストリーや花、鯉のぼり、雛飾りなど季節を感じてもらえるような共有空間作りを心がけている。TVの音量なども時間によって調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたい方、みんなと一緒に過ごしたい方など、それぞれの思いを尊重したケアを心がけている。フロアのTVの周りをソファで囲み、出来る限りくつろげる空間となっていけるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族と相談したり、実際に生活の場を訪問させて頂き、本人が今まで使ってきた物なるべく多く持って来て頂くようお願いしている。現在、本人の希望で、入居後にフローリングを畳の部屋にして、今まで生活していた本人の部屋の配置そっくりにして使用している方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体力が低下している入居者さんでも対応していけるよう、様々な所に手すりをつけたり、廊下の洗面台は車椅子の方でも使いやすいよう高さを考えたり、蛇口を使いやすいものに付け替えたりと、その時入居されている方の状態に応じて工夫している。		